

編集後記

■健康診断で中性脂肪の数値が高すぎる事が判明。シイタケに含まれるエリタデニンなる物質は中性脂肪を下げる作用があるらしい。起死回生を狙ってシイタケを今よりもっと食べることにします。(ま) ■きのこに教えてもらうことはとても多い。(公) ■今年になって読んだ本のなかに中国の文化大革命のことを書いたものが2つありました。中国SFの『三体』、そして『ゴビ砂漠からの脱出』。三体はもちろんフィクションですが、物語が始まるきっかけが文化大革命なのです(中国語版は、今の時代でも文革の場面を冒頭に持ってくるのは難しかったとのこと)。文革により父を失った娘が、銀河系をはるかに凌駕する物語の、重要な発端を開く話です(SFですが・・)。そして、『ゴビ砂漠』の方は、リアルタイムで文革を経験した人の物語です。著者は小学校を卒業したあと、ゴビ砂漠へ下放され、いろんなとんでもない苦勞をしたあと、20歳をすぎたくらいに、いろんな偶然のきっかけでそこから抜け出すことができ、米国に留学する機会を得て、いまでは米国で大学の先生をしているという物語。わたしは文化大革命とは時代がすこし下の世代ですが、私が学生で研究室にいた1981年頃、とても立派な雰囲気と年齢の中国からの留学生を思い出します。どのような事情で日本の研究室にやってこられたのか。その前はどうかだったのか。いろいろ思わせるような雰囲気でした。私はその後、1987年に博物館にはいり、1995年前後に中国に調査で何回かかける機会がありました。そのときカンターパートになっていた方々も文革の時代の経験者のようでした。ひきうけていただいた方は、夫妻で大学の教授、米国留学の経験もあるということで、文革のころは完全な知識人階級であったため、自分のこどもに十分な教育をうけさせられなかったらしいこと。私とほぼ同世代の研究室の方々も、大学入学後にはじめて英語を学び始めたとか(その人は現在米国在住の研究者)、自宅で親の教育で(内緒で)英語を学んだとか(そのひとも現在は教授)、でも研究室にいたもっと若い世代はなんでも自由に学んで育ってきたらしいこと。そんなことを思い出した次第です。談話会とはなんの関係もないことですが、編集もしていないわたしの、これが編集後記。(光)

□今号もフルカラー仕様でお届けします。Web版とともにお楽しみください。□コロナ禍で行事がおもうようにできませんが、会費の納入(郵便振替)をお願いいたします。各々の納入状況は、会報をお送りした封筒の宛名ラベル最下段に年度で記してあります。□本誌のご意見やご感想などお聞かせください。またご要望も受け付けております。(事務局)

ISSN 1881-9230

千葉菌類談話会通信 38号

CHIBA MYCOLOGICAL CLUB BULLETIN NO. 38

2022年3月

発行 / 千葉菌類談話会

編集 / 千葉菌類談話会編集幹事

連絡先

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2

千葉県立中央博物館 吹春俊光

メール fukiharu@nifty.com

ホームページアドレス <http://chibakin.la.coocan.jp/>